

令和3年度

## 「『農』の機能発揮支援アドバイザー派遣事業」実施結果

(この事業は、令和3年度都市農業機能発揮支援事業(農林水産省)を利用して実施しています。)



---

### < 報告内容 >

1. 令和3年度実施概況	.....	1
2. 過去9年間の事業推移	.....	2
3. 派遣箇所の詳細	.....	3
4. 課題と解決方法等	.....	24

---

一般財団法人 都市農地活用支援センター

# 1. 令和3年度実施概況

○全国の農家、都市住民、企業、NPO等の依頼に応じ、都市農業の多様な機能を活用した取組みを支援するため、テーマに応じた専門家をアドバイザーとして派遣した。  
(引き続き、コロナ感染予防等で必要な場合はオンラインでの派遣実施も可能とした。)

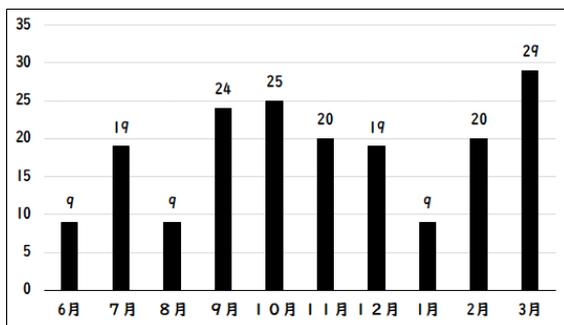
○本年度もコロナの影響で、多数が集まる講演会、学校の授業(食育)、高齢者施設や障害者施設での活動、農業祭や食に関わるイベントが厳しく抑制されたが、それにも拘らず年間で225箇所から専門家派遣の相談があり、183箇所に専門家を派遣することができた。本事業の目的である都市農業機能への国民の理解が大幅に拡大、深化していることが示された。

- ・派遣手続き終了箇所数 187 箇所
- ・キャンセル箇所数 4 箇所 (内、コロナウイルス関係 2 箇所)
- ・派遣実施箇所数 183 箇所 (内、オンライン 35 箇所)
- ・派遣アドバイザー数 212 名
- ・参加者数 3,746 名 (内、農業者 407 名)

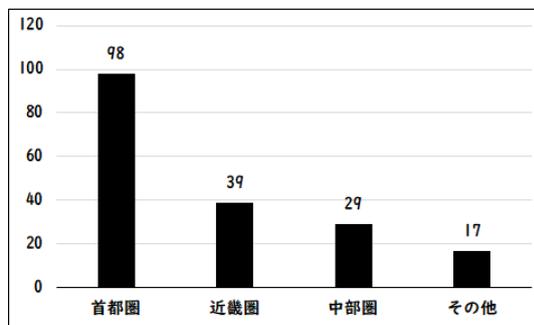
## ①期別派遣箇所数

	1期	2期	3期	合計
	6月～9月	10月～12月	1月～3月	
計画	70	90	40	200
令和1年	74	83	38	195
令和2年	46	75	55	176
令和3年	61	64	58	183

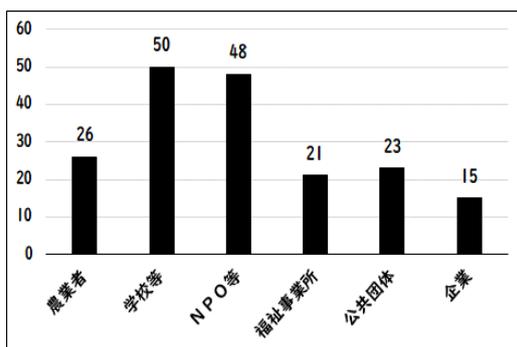
## ②月別箇所数



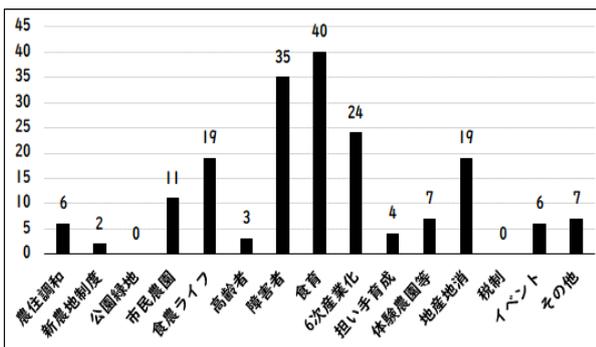
## ③圏域別箇所数



## ④依頼団体別箇所数

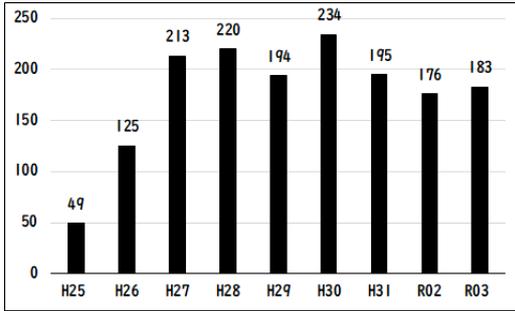


## ⑤テーマ別箇所数

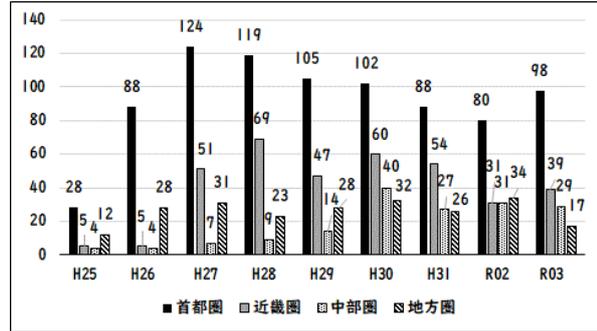


## 2. 過去9年間の事業推移 (H25～R03 累計)

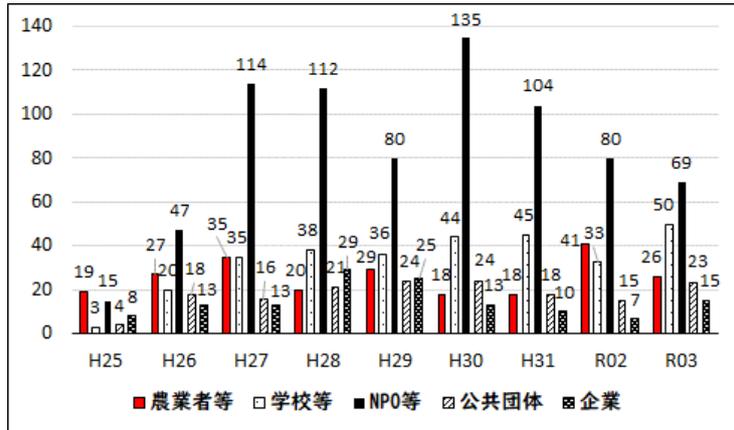
①年度別箇所数



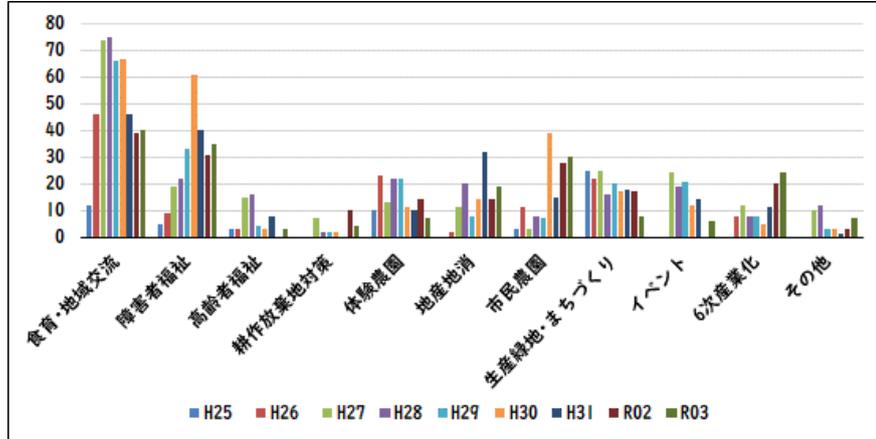
②年度別圏域別箇所数



③年度別依頼者別箇所数

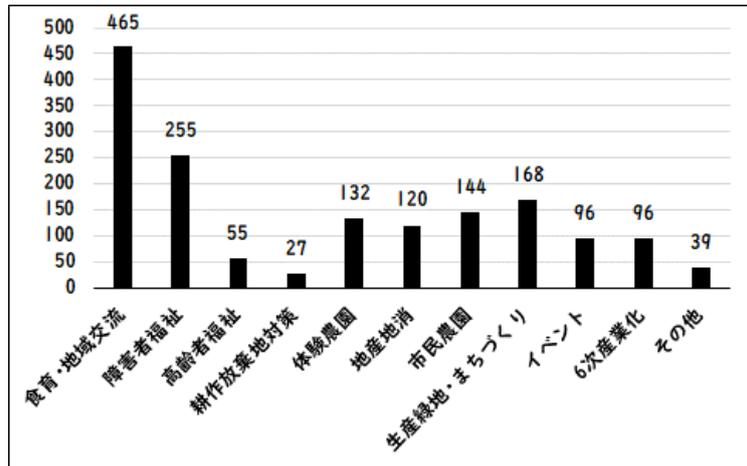


④年度別テーマ別箇所数



⑤テーマ別箇所数累計

(H25～R03 累計: 1,597 箇所)



### 3. 派遣箇所の詳細

#### (1) 分野別派遣箇所一覧

大分類	小分類	派遣先
(1)まちづくり 8件	1) 農住調和のまちづくり [農住調和のマスタープラン、 郊外での農を活かしたま ちづくり、市民参加]	アローレ八王子(八王子市)、小金井市都 市整備部(小金井市)、農業者グループ(愛 知県愛西市)、さいたま市ランドコーディネ ーター協議会(埼玉県さいたま市)
	2) 新しい都市農地制度 [一般市での生産緑地導入、 都市農地貸借円滑化法]	JA ぎふ(岐阜県岐阜市)、 広島市農政課(広島県広島市)
	3) 公園と緑	
(2)市民利用 30件	4) 市民農園 [開設者への情報提供、 農園の管理・運営改善、 法制度]	(株)ITP(名古屋市)、農地所有者(調布 市)、日進市農政課(愛知県日進市)、ゆめ みヶ丘岸和田まちづくり協議会(大阪府岸和 田市)、静岡県地域農業課(静岡県静岡 市)、NPO 百生一輝(兵庫県川西市)、名 古屋大学地理学教室(名古屋市)、とさレ モンの会(高知県いの町)
	5) コミュニティ菜園・食農 ライフ [自然農法等の農業指導、 コミュニティ活動、スモール ビジネス]	平田寺子ども食堂(愛知県北名古屋市)、 あべのハルカスファーム(大阪市)、東京農業 大学グリーンアカデミー有志(世田谷区)、 江戸川区水とみどりの課(江戸川区)、 映像発信てれれ(大阪府河内長野市)、 (一社)TUKURU(日野市)、たいようカフェ (愛知県春日井市)、宗教法人神宮寺 (名古屋市)、菜々いろクラブ外(愛知県北 名古屋市)、NPO ながいく(愛知県長久 手市)、THE 農 SPACE(愛知県常滑市)、 ぽこあぽこサイエンス倶楽部(西東京市)、 ZEN呼吸法ジネン塾(長野県上田市)
(3)教育・福祉等 78件	6) 高齢者・生きがいづくり [農業指導、園芸療法]	医療法人紫蘭会(富山県高岡市)、高田馬場 シニア活動館(新宿区)
	7) 障害者福祉等 [特別支援学校での技術 指導、就労支援事業所等 での農福連携円滑化・ 収益増、補助事業導入等]	① 特別支援学校 板橋特別支援学校(板橋区)、八王子市立 松が谷中学校(八王子市)、都立あきる野 学園(あきる野市)、とりかい高等支援学校 (大阪府摂津市)、 ② 福祉事業所、農福連携 NPO マイライフ(滋賀県甲賀市)、社福法人 桐孝会(つくば市)、阪神農業改良普及 事業協議会(兵庫県三田市)、(一社)働く しあわせプロジェクト(神奈川県川崎市)、 (株)コトネ生活(目黒区)、わーくす昭和橋 (名古屋市)、ユギムラ牧場(八王子市)、 えがお株式会社(鳥取県鳥取市)、農業者 (静岡県静岡市)、NPO バリアフリーセンター 福祉ネットナナの家(狛江市)、岡崎市経済 振興部(愛知県岡崎市)、ウィンパートナーズ (名古屋市)、NPO おおつきエコビレッジ

		(山梨県大月市)、(一社)デマンド・アンド・ケア(八王子市)、いきいき福祉会(神奈川県藤沢市)
	<b>8) 学校教育等の食育</b> [総合学習、社会科等で江戸東京野菜学習、いのちと自然、農業技術指導、食の大切さ、幼児が食農に親しむ]	<b>① 東京都小学校の授業</b> 中神小(昭島市)、千住双葉小(足立区)、西伊興小(足立区)、保木間小(足立区)、栗原北小(足立区)、尾久宮前小(荒川区)、光が丘秋の陽小(練馬区)、第一亀戸小(江東区)、第二亀戸小(江東区)、香取小(江東区)、水神小(江東区)、みなみ野小(八王子市)、大和田小(八王子市)、東京都市大学付属小(世田谷区) <b>② それ以外の学校での授業</b> 英彰小(堺市)、稲付中(北区)、ひよどり山中(八王子市)、松が谷中(八王子市)、八王子東高(八王子市)、東京女子学院高(練馬区) <b>③ 保育園等</b> にじいろ保育園(東京都練馬区)、うえしおキンダースクール(大阪市) <b>④ 自治体や民間の社会教育</b> 兵庫県楽農室(神戸市)、NPO 富田林自然農法根っ子の会(大阪府富田林市)、白金学童クラブ(港区)、いただきます2上映会(横浜市)
(4)都市農業 54件	<b>9) 6次産業化</b> [農業者やそれを支援する自治体、NPO等の団体がブランド化、加工・販売、HACCP学習、マルシェ等を通じて収益増を図る]	<b>① 自治体、NPO、協議会等</b> NPO Green plan(京都府京丹後市)、Osaka farm to table(大阪市)、阿見町農業振興課(茨城県阿見町)、グルテンフリースーツマルシェ実行委員会(大阪市)、つながるファーム(堺市)、微生物農法研究会(静岡県磐田市)、(有)高生連(高知県南国市)、NPO ゆうきハートネット(岐阜県白川町) <b>② 農業者等</b> 稲葉生産組合(愛知県愛西市)、うかのわ(愛媛県松山市)、(株)オーガニックワン(堺市)、もぐもぐファーム(八王子市)、辻川喜左衛門農園(大阪府泉佐野市)、なごみ福祉会 愛和ハウス(堺市)、農業者(大阪府枚方市)、(有)サイズアソシエイツ(港区)
	<b>10) 担い手育成や農地確保</b> [自治体やJAの取組支援、市民参加による遊休地対策]	JA マインズ(府中市)、川崎市都市農業振興センター(川崎市)、阪神農林振興事務所(兵庫県伊丹市)、里山農耕(岐阜県美濃加茂市)
	<b>11) 入園方式等の農業経営</b> [入園方式紹介、市民参加型農業、CSA、補助金導入]	農業者(和歌山県白浜町)、農業者(愛知県犬山市)、NPO いぶり自然学校(北海道苫小牧市)、富澤ファーム(三鷹市)、バンフービレッジファーム(町田市)
	<b>12) 地産地消</b> [セミナー、ワークショップ、イベントを開催(企業、大学、	BE CAREER(江東区)、スローフードすぎなみTOKYO(杉並区)、lilo 株式会社(滋賀県草津市)、PALITALY(小金井市)、桜美林

	市民グループ)、新商品開発、伝統野菜、研究の素材等]	大学ビジネスマネジメント学群(町田市)、(一財)大阪市コミュニティ協会(大阪市)、飯坂食糧(大阪府泉佐野市)、(合)アオゾラ(大阪市)、エシカルスタイルライブラリ(神奈川県藤沢市)、(株)エッチワン(京都府久御山町)、(一社)小金井市観光まちおこし協会(小金井市)、愛農消費者の会(新宿区)
(5)税制その他 15件	13) 税制	
	14) 農業祭等のイベント [市民グループ、企業、神社がマルシェや祭りを開催]	STEP HARVEST 実行委員会(大阪市)、兵庫 farm to table(兵庫県小野市)、滝野川八幡神社(北区)、Irodorilabo(大阪市)、(一社)グリーンカラー(大阪市)
	15) その他 [植物工場、新素材開発、新規就農、補助制度、空地の農的利用、農による地域おこし]	新規就農者(三鷹市)、大阪府北部農と緑の総合事務所(大阪府茨木市)、大阪に緑を増やす会(大阪市)、日進市農政課(愛知県日進市)

## (2) 各箇所の取組内容 ※今年度は、分野3)及び13)については派遣取扱いなし。

### 1) 農住調和のまちづくり

#### ○ 小金井市都市整備部(東京都小金井市)

都市における今後の農地保全方策についてアドバイスを受けた。

#### ○ さいたま市ランドコーディネーター協議会(埼玉県さいたま市)

各地の市民団体の活動事例を踏まえた都市農業支援の在り方を検討するとともに、協議会の今後の活動について、アドバイスを受けた。



#### ○ 愛西市農業者グループ(愛知県愛西市)

名古屋市近郊の農村の空き農家や未利用農地を活用し、福祉とも連携した新たな担い手の育成を目指している地元のグループ。

農業だけでなく、地域の伝統や文化等を一体化した地域ブランド創出を模索しており、先進事例の紹介等を受けた。



#### ○ アローレ八王子(東京都八王子市)

大学研究室が地元スポーツクラブと地域農業者と連携し、アローレ八王子クラブハウス近隣で高齢化等により管理できなくなった畑を借り、「農」を活かした地域活性化に取り組もうとしている。今回、アローレの敷地内で簡易的に耕することができる候補場所、大学馬術部の馬糞を活用し、馬の餌として提供できるような循環型の農業についてアドバイスを受けた。

## 2) 新しい都市農地制度

### ○ JA ぎふ(岐阜県岐阜市)

自治体での生産緑地導入に向けた取組が進む中、JA が組合員に対して生産緑地制度や都市農地貸借円滑化法等を説明するため、生産緑地導入の具体事例をもとにアドバイスを受けた。

### ○ 広島市農政課(広島県広島市)

生産緑地制度の運用、都市農地貸借円滑化法の手続きについて、専門家よりアドバイスを受けた。

## 4) 市民農園

### ○ 静岡県地域農業課(静岡県静岡市)

自治体に市民農園開設を考えている旨の問合せが増えていることから、自治体職員を対象に市民農園の管理・運営の仕組み等を説明。

### ○ (株)ITP(愛知県名古屋市)

新たに市民農園事業に参入しようと考えている企業に対し、各地の事例を紹介するとともに、管理・運営の仕方や経営についてアドバイスを行った。



### ○ 日進市農政課(愛知県日進市)

市では市民農園のサービス向上等のため、民間事業者等との連携を検討していることから、各地の事例情報の提供のほか、民間が運営している市民農園の現地視察を行った。



### ○ ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会 (大阪府岸和田市)

丘陵地開発に伴い誕生した農地の利用にあたって、周辺の都市住民と連携した農業のあり方として、市民農園等を検討しており、市民農園の定義や果たす役割について講義を受けた。



### ○ 名古屋大学地理学研究室

「都市農地における市民農園の可能性」をテーマにした論文を取りまとめるに当たり、農園開設の経緯や運営手法に関してフィールド調査を実施し、それを踏まえたアドバイスを行った。

### ○ とさレモンの会(高知県いの町)

とさレモンの会は、高知県産レモンの持続可能な栽培を目指す生産者グループと、サポーターによる会員制の団体。生産者と生活者、高知県内外のサポーター等の様々な人をつなぎ、レモンの需要と供給を広げている。今回は地域農家の依頼で、自治体と連携し、遊休地を活用した市民農園の開設に向けてアドバイスを受けた。

### ○ NPO 百生一輝(兵庫県川西市)

障がい者福祉やひきこもり支援に取り組んでおり、市民農園の管理も請け負っている。請負っている市民農園の今後の管理のあり方についてアドバイスを受けた。

## 5) コミュニティ菜園、食農ライフ

### ○ 東京農業大学グリーンアカデミー (東京都世田谷区)

成人(中高年齢者)を対象とした教育機関で、1年間を通しての講義と実習で、園芸・造園・健康に関する知識と技能を学ぶことができる。都市での農業活動の可能性について考えるきっかけづくりとして、専門家より都市農地の存在と現状等について講演した。

### ○ (一社)TUKURU(東京都日野市)

日野市と市民の協働による「農のある暮らしづくり」を推進する活動を行っており、拠点となっている「せせらぎ農園」では、一般家庭の生ゴミを堆肥化する資源循環にも取り組んでいる。今回は、先進事例をもとに、コミュニティガーデンの目的や運営方法等について、専門家からアドバイスをを行った。

### ○ あべのハルカスファーム(大阪府大阪市)

あべのハルカスファームは、あべのハルカスのウイング館屋上にある会員制の屋上貸し菜園。あべのハルカス主催の会員向けイベント、「祝なにわの伝統野菜認証!堺鷹の爪と天王寺蕪を知ろう会」の開催に合わせ、専門家より、なにわの伝統野菜とその認証を受けたばかりの「堺鷹の爪」について講義した。



### ○ 江戸川区水とみどりの課(東京都江戸川区)

近年、放置されていた興宮公園内の畑を回復し、市民が農作業を体験する場にする計画。農作業体験を行うための畑としての土づくり、作りやすい野菜の選定、年間作業工程等を専門家よりアドバイス。

### ○ 平田寺こども食堂(愛知県北名古屋市)

住職の奥さんが中心になって長年、子ども食堂に取り組んでおり、作物ができる過程を教えようとの思いから、お寺の空地を利用してレイズドベッドを設置。近隣住民も参加した農作業体験を行った。



### ○ たいようカフェ(愛知県春日井市)

古民家を改修した自然志向派のレストラン。家庭菜園などの農作業や収穫物を利用したコミュニティビジネスに関心がある市民や農家等に呼びかけ、マルシェの開催や研修会を行っている。専門家より、農業をビジネスとして成立していく上での具体的なビジネス成功事例や商品がを紹介した。

### ○ NPO ながいく(愛知県長久手市)

一軒家を借りて、幼児預かり等の子育て支援活動や親子向けのイベントを行っている。施設

の中庭を活用し、農に触れ合うことのできるコミュニティスペース(100 m<sup>2</sup>程度)を展開していくため、敷地の開墾や施設整備等を専門家よりアドバイスを受けた。

#### ○ 映像発信てれれ(大阪府河内長野市)

映像制作会社「映像発信てれれ」の主催者が、大阪府河内長野市の郊外の古民家を買取り、そこで「農ある暮らし」を実践。多様なドキュメンタリー映像を制作する傍ら、敷地内で小さなコミュニティ畑(200 m<sup>2</sup>)でを運営し、露地や室内での栽培、食物調理等を得意とする仲間と定期的に農的活動を継続している。今回は、専門家の派遣を得て、一年の取組を振り返ったワークショップを開催。



#### ○ 宗教法人神宮寺(愛知県名古屋市中)

寺の新築・改築に伴い、境内に地域の子供たち向けの野菜作り(有機農法)体験用の菜園を作り、さらに、周辺で味噌づくりに取組んでいるグループの作業場を提供することを計画。そのための施設整備や土づくり等を専門家からアドバイスを受けた。

#### ○ 菜菜いろいろクラブ他(愛知県北名古屋市)

市が開催してきた「いきいき農業塾」が財政事情等から廃止される中で、そのOBが自主的に様々なフォロー活動を行っており、菜菜いろいろクラブは農家から農地を貸借し、コミュニティ農園を運営している。SDGsが一般化する中、有機農業の思想・系譜等について、もっと勉強したいとのことで専門家を派遣した。



#### ○ THE 農 SPACE(愛知県常滑市)

農家から水田1反(10アール)、畑5畝(5アール)を借りて、地域で米や野菜作り、養蜂等を家族ぐるみで楽しんでいるグループ。今後のコミュニティビジネスに繋げていくためのアドバイスを受けた。

#### ○ ぽこあぽこサイエンス倶楽部(東京都西東京市)

西東京市のコミュニティ菜園「みんなの畑」で農体験をしている中学生が、通っている学習塾で農業に関心のある同級生と「ぽこあぽこサイエンス倶楽部」をつくり、「みんなの畑」の一角を使わせてもらい農作業を行っている。専門家よりハーブと野菜の植え方・育て方の指導を受けた。



#### ○ ZEN呼吸法じねん塾(長野県上田市)

塾主宰者は、神奈川県から上田市に移住し、農地付きの空き家を購入して、都市住民等向けに自然の中でのZEN呼吸法(腹式呼吸)のレッスンのほか、無農薬無化学肥料の稲作体験、味噌づくり体験、収穫した米の購入をセットにした塾を開いている。専門家に、田2反と畑1反を見学してもらい、田周りの植生や野菜の植え方、畝の向き、水はけや空気の通りについて、指導を受けた。



## 6) 高齢者・生きがいづくり

### ○ 医療法人紫蘭会(富山県高岡市)

紫蘭会は病院の他、介護老人保健施設やデイケア施設、保育園等を経営している。食と農に大きな関心を持つ医師を中心に、園芸療法士や農業経験のある職員等が協力し、介護老人保健施設とデイケア施設で園芸療法を取り入れた農作業を実施している。今後、施設内の空地を利用し、新たに病院患者だけでなく、地域住民等が参加できるインクルーシブな農園を作るため、専門家にメディカルファームを造成する予定地を視察してもらったうえで、アドバイスを受けた。

### ○ 高田馬場シニア活動館(東京都新宿区)

新宿区の施設である活動館屋上の畑を利用し、地域になじみ深い、江戸東京野菜(内藤カボチャ、内藤唐辛子、鳴子瓜)の栽培を通じて、シニアのコミュニティ活動の活性化を目指している。専門家より、内藤カボチャ、内藤唐辛子、鳴子瓜の歴史と特長についての講義、苗や種購入方法等についてアドバイスを受けた。



## 7) 障害者福祉等

### ① 特別支援学校の農業実習での技術指導

#### ○ 八王子市立松が谷中学校(東京都八王子市)

特別支援学級(固定級10名)を対象とした野菜栽培の座学及び実習が年間10回(月1回)あり、専門家が指導している。アドバイザー派遣事業では、7月、9月、10月の3回を担当し、校内花壇(3m×20m)を利用した実習畑で大根、人参、エンドー豆、カボチャの栽培について指導を行った。

#### ○ 板橋特別支援学校(東京都板橋区)

農園は校庭に90㎡、校舎(2階建て)屋上に75㎡(深さ1m)ある。屋上の菜園を使用して、高1~高3の知的障害児による農業班(10名)を対象に、地元の伝統野菜である「志村みの早生大根」とブロッコリーの栽培、沢庵づくりの指導を行った。



#### ○ 都立あきる野学園(東京都あきる野市)

高1~高3の身体障害児(15名)を対象とした学習(自立活動)で、地元の伝統野菜である「のらぼう菜」を教室のテラスでプランターを利用して、栽培・収穫している。のらぼう菜の栽培や管理等について指導を受けた。

#### ○ とりかい高等支援学校(大阪府摂津市)

全員自主通学、就労を目指す知的レベルの高い児童を対象とした学校。食とみどり科では、約300㎡の農場で農作業をしているが、今回、新たににわの伝統野菜である難波葱、天王寺蕪、田辺大根の栽培に取り組むとのこと、専門家より栽培方法等の講義を受けた。



## ② 福祉事業所、農福連携

### ○ NPO マイライフ(滋賀県甲賀市)

これまで米を調達していた地元農家との連携を強め、農家の畑で農作業支援(就労継続支援 B 型事業所・施設外就労)、その野菜を食材として調理加工に利用する(就労継続支援 A 型事業所・施設外就労)事業展開を考えている。それに向けて、福祉事業所と農業法人が連携して事業を行う際の体制整備や施設整備について、専門家よりアドバイスを受けた。

### ○ 生活協同組合ならコープ(奈良県奈良市)

地域のまちづくり支援として、遊休農地を借りての農福連携事業の立ち上げを検討中。専門家から農福連携の枠組み等についてオンラインで勉強会を行った。



### ○ 社会福祉法人桐孝会(茨城県つくば市)

茨城県つくば市や石岡市で福祉事業所を展開しており、新たに就労継続支援 B 型事業所を設立し、農作物の栽培、加工、販売を行うこととなった。事業所が栽培するのに適した作物の選定、加工品開発、販売先の確保、衛生管理の方法について、専門家からアドバイスを受けた。

### ○ (一社) 働くしあわせプロジェクト(神奈川県川崎市)

就労移行支援等の「送り出し」型の福祉事業所を運営していたが、その限界を感じ、協働就労コミュニティ「柿生の家 JINEN-DO」を活動拠点として、敷地内や周辺の農地を利用して、「森のようなまちづくり」に取り組んでいる。利用者は借りた農地での農作業、果樹栽培やその加工作業を行っている。経営自立に向けて、専門家からアドバイスを受けた。



### ○ わーくす昭和橋(愛知県名古屋市)

生活介護と就労継続支援 B 型事業所を運営しているわーくす昭和橋の主力製品である手作り肉まんは、コロナ禍の巣ごもり需要が追い風になり、販売が大幅に伸びているが、現在の食材仕入れや加工場のキャパシティは満杯状態にある。食材仕入れでの他所との連携等について、専門家よりアドバイスを受けた。

### ○ ユギムラ牧場(東京都八王子市)

ユギムラ牧場の前身は、多摩ニュータウン開発に抗して展開された農家が主体になった農のある地域づくりの運動体であるが、現在は、世代交代も進み新しい農業法人、社会福祉法人、太陽光自家発電活動等、様々な主体が活動する場となっている。今回は、ブルーベリー畑を再生し、そこでの農福連携の展開、都市農地や自然環境の保全に向けてどのように取り組んでいくか、専門家とともに検討した。



### ○ (株)コトネ生活(東京都目黒区)

(株)コトネ生活は、「障害者のはたらく」をテーマにした出版等を通じて、様々な情報提供を行っている。近年、農福連携への注目度が高まる中、先ず農福連携についての系統的な調

査研究を行う意向があり、その際の留意すべき点について専門家からアドバイスをを行った。

○ えがお株式会社(鳥取県鳥取市)

運営している就労継続支援 B 型事業周辺の耕作放棄地(約 17,000 m<sup>2</sup>)を借りて、白ネギ、ブロッコリー、アスパラ、サツマイモ等を栽培し、直売所やJAを通じて販売している。工賃アップに向け、社内の食品加工部門だけでなく、地域の加工会社や店舗とコラボし、売上の拡大を目指すために、専門家よりアドバイスをを行った。



○ 農業者 I 氏(静岡県静岡市)

所有しているみかん畑を利用し、障がい者や引きこもりの若者等を受け入れて農福連携事業を実施したいことから、福祉事業所の利用者へのどのように声をかけたらいいのか、福祉施設や自治体の理解・協力を得る道筋等、専門家よりアドバイスを受けた。

○ NPO パリアフリーセンター 福祉ネットナナの家(東京都狛江市)

ナナの家は放課後等にデイサービス・児童発達支援を行っており、そのプログラムの一環として2頭のポニーを飼育し、多摩川河川敷で乗馬会(年4回)を開催している。その飼育に適した農地を探していたが、都市農地センターのセミナーを通じて狛江市の農地所有者が貸し手を探していることを知り、専門家を介してそのマッチングを図ることになった。



○ ウィンパートナーズ(愛知県名古屋市)

運営している就労継続支援 B 型事業所「ぽかぽかワークス」では、これまで市街化調整区域で農地バンクを通じて約2haの農地を借りて、白菜、人参等を栽培・加工していたが、今般、都市農地貸借円滑化を利用し、生産緑地 850 m<sup>2</sup>を借り、市民農園を開設した(障がい者が農園サポートを行う)。今後は、市街化調整区域での農福連携事業に取り組むに向けて、専門家よりアドバイスを受けた。

○ (一社)デマンド・アンド・ケア(東京都八王子市)

デマンド・アンド・ケアは、引きこもりの若者や障がい者の働く場の開設・運営等、多様な事業を展開している。また、耕作放棄地を活用し、近隣の大学と連携して南米原産のスーパーフード「キヌア」の栽培を行っている。新たに地域活動支援センターの運営を行うこととなったのを機に、就労継続支援 B 型事業所を開設することから、キヌアによる農福連携と6次産業化について、専門家からアドバイスを受けた。



### ○ 阪神農業改良普及事業協議会(兵庫県三田市)

阪神地域の自治体やJAの研修会において、農福連携をテーマに、就労支援事業や特例子会社の取組を含め、優良事例や様々な事例を専門家から紹介した。

### ○ 岡崎市経済振興部(愛知県岡崎市)

市は地域活性化を図るため、農泊と農福連携を一体化した事業構築を図ろうとしている。少しずつ広がりを見せているものの、まだ事業者の理解やマッチングが十分に進んでいない。については、少しずつ広がりを見せているものの、まだ事業者の理解やマッチングが十分に進んでいないことから、農福連携への取組み体制の強化に向けて、専門家からアドバイスを行った。

### ○ NPO おおつきエコビレッジ(山梨県大月市)

平成17年に構造改革特区制度を用いて、宅地開発撤退後の荒廃農地等約10haをNPOが借受け、エコツーリズムの拠点、アグリパークとしてエコの里を開設・運営している。今回、専門家から都市住民との交流を視野に入れた農福連携及び、観光事業への具体的な取組等についてアドバイスを受けた。



### ○ 社会福祉法人いきいき福祉会(神奈川県藤沢市)

特別養護老人ホームの移転に伴い、諸事情により移転したいと考えていたが、建物がしっかりしていることから、この土地建物を活用し、周辺地域の遊休地を取り込んだ農福連携の拠点として活用することを検討中。専門家より、社会福祉団体による農園事業の取組みの可能性についてアドバイスを受けた。

## 8) 学校教育等の食育

### ① 東京都内の小学校での授業(総合学習、社会科等)

東京都内の小学校で、江戸東京・伝統野菜研究会の大竹道茂代表を中心にしたグループが江戸東京野菜を起点に、地域の歴史・地理、食育、実地栽培に広がる授業支援に取り組んでいる。

### ○ 足立区の農業委員会が中心になった各小学校での取組(足立区)

足立区では農業委員会が全面的にバックアップし、伝統野菜である千住葱への理解を深めるため、各小学校の4年生等を対象にした授業の中で「命をつなぐ千住葱栽培授業」として、千住葱の栽培体験(「千住ネギ～みんなで育てよう」)を取り入れている。

年間の授業内容は、6月に種の伝達式(+講演)から始まり、その後に播種・定植、翌年2月に収穫、4月に種採取という流れである。11名の農業委員が夫々3校ずつの小学校を分担して、全体の段取りサポート、資材提供、播種・定植等の指導、圃場管理(1回/週の見回り)を行っている。

以下の学校の「種の伝達式」に合わせた講演者としてアドバイザーを派遣し、地域の地理・地形と歴史、ネギの種類、千住葱の由来、実際の栽培方法を説明・指導した。

- イ. 保木間小学校：4年生 55名
- ロ. 栗原北小学校：4年生 85名
- ハ. 千寿双葉小学校：4年生 55名
- ニ. 西伊興小学校：5年生 90名



#### ○ 第一亀戸小学校(江東区)

地域の行事として、校内で栽培した亀戸大根を3月に香取神社の福分け祭りに合わせて奉納している。今回は初めての試みとして、3年生(3クラス109名)に亀戸大根の歴史や栽培方法を専門家に講義してもらった。

#### ○ 第二亀戸小学校(江東区)

コロナ禍であったため、体育館に集まり、ソーシャルディスタンスをとり、ステージ上の大スクリーンを用いて、3年生(4クラス130名)全体で、亀戸大根をはじめとする江戸東京野菜の歴史と文化、栽培方法等について専門家より講義を受けた。



#### ○ 香取小学校(江東区)

毎年、江東区観光協会亀戸支部「亀の会」が亀戸大根の種を送ってくれ、4年生～6年生の児童で構成されている「環境委員会」が校内で栽培し、香取神社に奉納している。今回初めて、3年生(1クラス37名)を対象として、専門家から亀戸大根の歴史、神社での取組、大根の特徴等を講義してもらった。

#### ○ 尾久宮前小学校(荒川区)

最初は、小学校の栄養士さんから「地元野菜を食べさせたい」という協力依頼からスタート。今回、専門家の指導のもと、4年生(2クラス64名)が校庭敷地(1m×40m)の空地を利用して、荒川区(旧名三河島)の伝統野菜「三河島菜」を栽培した。また、伝統野菜や昔の様子をスライドで紹介した。



### ○ 水神小学校(江東区)

3年生が校内の花壇やプランターを利用し、亀戸大根を栽培している。例年、「亀の会」を通じて講話していたが、今回、3年生(2クラス52名)を対象に、専門家から亀戸大根の歴史や地域の移り変わり、香取神社との関係といった内容を講義してもらった。

### ○ 光が丘秋の陽小学校(練馬区)

畑で学年ごとの作物を育て、食育を推進している。以前は、周辺農家の畑を学校農園として借りていたが、農家に相続が発生し、借りることができなくなってしまったため、校庭の花壇を利用している。なお、隣接して「練馬区立秋の陽公園」があり、公園内の水田では、区内の各校が田植えをしており同校の5年生ももち米の苗を植えている。今年は2年生で初めて雑司ヶ谷ナスを栽培したため、専門家より練馬区の伝統野菜を中心とした授業を行った。

### ○ 東京都市大学附属小学校ミニレッスン(世田谷区)

毎年、4年生80名を対象に、フランス料理人の三國シェフによる「ミニレッスン」を行っている。ミニレッスンは、年12回の講義の中で、プランターで野菜を育て、日本の食文化や食事のマナー、地域食材について勉強し、最後に収穫した野菜で調理実習と試食を行っている(保護者も参観)。今回は専門家から、7月にジャガイモを使ったポタージュスープづくりの実演と試食、9月に東京べかな、金町こかぶ(江戸伝統野菜)、はつか大根、ロメインレタス、水菜、西洋ふだん草(スイスチャード)の栽培指導を行った(9月は緊急事態宣言下のため、オンラインで実施)。

### ○ みなみ野小学校(八王子市)

敷地外の市有地280㎡を借りて、農を軸にした総合学習の通年プログラムを実施している。3学期に、3年生(3クラス113名)が川口エンドウを植え付け、4年生の春に収穫し、4年生の9月に高倉大根の播種・間引きを経て、11月に収穫している。また、農作業以外に食料問題の学習、地域の自然の見学等を行っている。



### ○ 大和田小学校 学校運営協議会(東京都八王子市)

大和田小ではJAの協力を得て、郊外の農地で青首大根や三浦大根を栽培している。学校運営協議会は、地域住民による教員サポート組織であるが、SDGsに触発され、来年度から自分達が主体となって校内で地元伝統野菜の高倉大根を栽培し、子供たちにも見てもらうプロジェクトを計画している。そのための適地判定、準備、スケジュール管理等を専門家よりアドバイスしてもらった。

## ② 上記以外の学校での授業、研修

### ○ 稲付中学校(東京都北区)

新校舎竣工に合わせ、校庭の一角に約50㎡の学校園を設置し、課外活動で北区の伝統野菜である滝野川カブや練馬大根を栽培している。中学2年生(3クラス)+特別支援学級の130名を対象に、専門家から江戸東京野菜の歴史、中山道との関係等を講義した。



○ 堺市立英彰小学校(大阪府堺市)

英彰小学校では、これまでも校内でなにわの伝統野菜である天王寺蕪を栽培しているが、今回、6年生(3クラス85名)に、地域の地形やなりたちに密着した伝統野菜の歴史等について専門家が講演した。

○ 八王子東高校(東京都八王子市)

1年生と2年生の混合チーム8名が、地元農業者でもある専門家の畑で、伝統野菜である高倉大根の栽培・収穫、沢庵の漬込みという一連の作業を体験した。



○ ひよどり山中学校(東京都八王子市)

ひよどり山中学校では、毎年1年生が「八王子市内めぐり」という校外学習を行っている。今回は、2班5名の学生が江戸東京野菜の高倉大根、八王子ショウガ、川口エンドウを栽培している地元農業者でもある専門家の畑を訪問し、インタビューを行った。

○ 東京女子学院高校(東京都練馬区)

選択科目のフードカルチャーコースの中で、数箇所内の校内花壇を利用し、専門家の協力を得て、江戸東京野菜(寺島ナス、練馬大根、伝統小松菜)の講義と栽培体験を実施した。



③ 保育園等

○ にじいろ保育園(東京都練馬区)

農地に隣接した保育園で、その畑の農家でもある専門家から、3歳~5歳の園児に向けて、野菜の講義を行うと共に、ジャガイモやサツマイモ掘り、ケール収穫等を体験した。

○ 蓮美幼児学園うえしおキンダースクール(大阪府大阪市)

食育授業の一環で、これまで多くの保育園での食育に取り組んできた専門家(大阪で果物屋を営む山口氏)から、柑橘について話を聞いた。小さい金柑と世界一大きい柑橘の晩白柚の比較等を通じ、園児に果物に興味を持ってもらった。



#### ④ 自治体や民間団体での社会教育

##### ○ 東京農業大学グリーンアカデミー (東京都世田谷区)

受講生の多くは農業や園芸に強い興味があるが、経験や知識が少ないシニア世代で、今後どのようにして「農のある生き方」ができるか、そのヒントを求めている。今回は、専門家より「都市農業の現状とこれからについて」と題した講義を行った。



##### ○ 兵庫県楽農室(兵庫県神戸市)

都市農地で生産された農産物を学校給食に利用することをテーマに、兵庫県が管内市町村担当者の研修会を開催し、専門家が東京都日野市の事例等を基に、そのための仕組み作りや課題についてアドバイスした。

##### ○ NPO 富田林自然農法根っ子の会(大阪府富田林市)

幼児のアトピー性皮膚炎で悩んでいる母親のグループで、自ら郊外の農地(水田+畑で2町歩)を借りて、安全な無農薬野菜を作っている。また、農業委員会と連携して自然農法塾を開催し、地元小学校の給食に食材を提供する等の活動を行っている。今回は、活動の中で抱えている課題(自然農法塾や食育活動の受け入れ等の申込方法や広報)について専門家からアドバイスを受けた。

##### ○ 白金学童クラブ(東京都港区)

学童クラブを運営している NPO ワーカーズと連携し、子供食堂等に取り組んでいる。学童クラブの会場にプランターを設置し、子供たちが農業体験できるイベントを企画しており、専門家と相談してそのための実行計画づくりを進めた。

##### ○ いただきます2上映会(神奈川県横浜市)

無農薬栽培や発酵食品等に関心を持つ主婦や子供を持つ母親などが集まり、神奈川県立地球市民かながわプラザで、映画「いただきます発酵の楽園」の上映に合わせ、金ちゃんファームの吉田氏による講演も行われた。



## 9) 6次産業化

### ①自治体、NPO、協議会等の取組

#### ○ NPO Green plan(京都府京丹後市)

京丹後市で自然農法に軸足を置いて、地域製品のPRや半農半Xによる移住受入れ等の活動をしている。大阪市等への販路拡大に向け、消費者ニーズに合った製品の陳列方法、現地訪問ツアーの企画等について専門家のアドバイスを受けた。



### ○ Osaka farm to table (大阪府大阪市)

大阪市周辺で、都市農業の振興を目的に、生産者の 6 次産業化のお手伝いや販路・売り場コーディネートなどを行っているグループ。メンバーの一人が GAP 検査員でもあり、今回は HACCP について、専門家から講義を受けた。

### ○ 阿見町農業振興課 (茨城県阿見町)

阿見町のブランド米であるミルクキーンを使って、地域に根差した酒造りを行うプロジェクトを東京農業大学と連携し進めている。その一環として、日本酒の仕込みが終わった後、醪(もろみ)を搾った時に出る酒粕を利用した新たな商品開発を行うこととしており、工程管理、パッケージ・ネーミング、値付け等について専門家からアドバイスを得た。



### ○ つながるファーム (大阪府堺市)

つながるファームは、市内にある 7 つの福祉事業所(就労支援 B 型、就労移行支援等)の担当者等が参加している。既に、堺市南部地区でブランド化されているレモンに続くブランド野菜、加工品の創出に向けて、専門家と共に意見交換や先進事例の視察等を行った。

### ○ 微生物農法研究会 (静岡県磐田市)

大小の稲作農家や市民が参加し、微生物を利用した堆肥作りを実践している。コメの販売だけでは頭打ちを感じる中、グルテンフリー市場が拡大傾向にあり、米粉に関心が集まっていることに着目し、研究会として米粉の商品化にチャレンジしたいと考え、専門家から米粉加工について学習。



### ○ グルテンフリースイーツマルシェ実行委員会 (大阪府大阪市)

個々でマルシェ等の活動を行ってきた菓子職人(パティシエ)が、合同でグルテンフリーをテーマにしたマルシェの開催を手掛けるに当たり、専門家からグルテンフリーについての基礎知識やイベント開催についての留意点等のアドバイスを受けた。

### ○ (有) 高生連 (高知県南国市)

(有) 高生連は、JA 高知県(土佐れいほく営農センター)と連携し、米粉消費の啓発・普及活動を実施している。米粉の卸先であるコープ自然派グループ(国産オーガニックを売りにした宅配方式の生協)の組合員を対象に、都市農業等への理解を深めるため、専門家の協力を得て、講演と動画による米粉調理デモを実施した。



## ○ NPO ゆうきハートネット(岐阜県白川町)

有機農業でまちづくりを目指す団体で、平成 31 年の農林水産祭「豊かなまちづくり部門」で内閣総理大臣賞を受賞している。稲作を主体に有機農業を活性化するために、名古屋市内の住民と連携した農業経営を模索している。名古屋でのマルシェ(オーガニックファーマーズ名古屋)にも参加している。都市部の消費者への広報や今後の事業拡大に向け、CSA とアグリツーリズムについて専門家から学んだ。

## ②農業者等による取組

### ○ 稲葉生産組合(愛知県愛西市)

農業をやっていた父親が死亡したため、母親から継承を希望されていることから、現在の事務所を縮小し、兼業で市民参加型農業経営を模索中。専門家から有機農法を基礎に、体験農園や地域企業と連携した福利厚生、周辺飲食店との連携等のアドバイスを受けた。



### ○ うかのわ(愛媛県松山市)

うかのわは、米作りの仲間と米粉パン作りを取組むお母さんたちのグループで、中心になっているのは、松山のジャンボタニシ稲作に興味を持ち、当地で新規就農した北海道出身の若者。今回は公園の隣接地 3 反の畑を利用し、専門家のアドバイスを得て、オープンを設置してパン作りのワークショップを開催した。

### ○ (株)オーガニックワン(大阪府堺市)

自社農園で栽培しているトマトのペースト加工を検討しているが、食品衛生法が改正され、2021 年 6 月から、食品を扱う全事業者に対し、HACCP による衛生管理が義務付けられたことから、加工の取組み方法や加工施設の整備に関して、専門家からアドバイスを受けた。

### ○ 辻川喜左衛門農園(大阪府泉佐野市)

大阪府南部(泉佐野市、岸和田市)で、自然農法の栽培を行う 2 軒の農家が共同して、消費者を対象とした収穫体験ツアーを実施するに当たり、企画や当日のツアー運営について、専門家からアドバイスを受けた。



### ○ 社会福祉法人なごみ福祉会 愛和ハウス(大阪府堺市)

約 1 反の農地を借りてトマトを栽培し、自社でトマトケチャップの加工を行っている就労継続支援 B 型事業所。専門家が、トマトを安定的に生産できる技術を指導した。



### ○ もぐもぐファーム(東京都八王子市)

5 反の生産緑地でニンニク、ハーブ、トマトを栽培し、チーズやオリーブを加えた保存食を作っている。周辺農家の規格外作物の利用に向けて規模拡大し、新たに食品加工場を建設する予定。生産緑地での施設建設なので、市に提出する「地域内農作物使用計画書」の作成、ロゴデザイン等について専門家に相談した。

### ○ 農業者 K 氏(大阪市枚方市)

K 氏は元ポーターサーで、独学で農業をマスターし、現在、2.5 反の農地を借りて、イチゴの観光農園を主宰。観光農園で収穫しないまま残っているイチゴをジャムに加工するため、専門家からアドバイスを受けた。

## 10) 担い手育成や農地確保等

### ○ JA マインズ(東京都府中市)

新たな担い手や後継者の育成を目的に、JA が新たに開講した講座で、都市農業を営む府中市、調布市、狛江市の農業者を対象に、「都市農業の現状、生産緑地法や都市農地の貸借等」について、専門家が講義した。

### ○ 川崎市都市農業振興センター(神奈川県川崎市)

農地貸借の促進及び、新規就農者(法人、個人)の発掘・育成等の支援について、専門家から法制度、税制や全国の参考事例等について情報提供をし、意見交換した。

### ○ 阪神農林振興事務所(兵庫県伊丹市)

防災登録農地制度に関し、専門家からの情報提供を踏まえ、自治体、JA の関係者が意見交換した。また、阪神地域で唯一、防災登録農地制度に取り組んでいる伊丹市の取組内容や、実現の経緯等について詳しい説明があった。

### ○ 里山農耕(岐阜県美濃加茂市)

兼業農家 8 名のグループ。周辺に耕作放棄地が増えているので、その整備・再利用を考えている。その方法として、都市部のような市民参加型農園を構想し、とりあえず 3 反の畑を使用貸借し、野菜の栽培を始めた。今回、企業との連携方法や、イベント運営について、法的な部分も含めて専門家からアドバイスを受けた。

## 11) 入園方式等の農業経営

### ○ NPO いぶり自然学校(北海道苫小牧市)

千歳空港と苫小牧市の中間にあるイコロの森は、全国植樹祭会場跡地にコミュニティフォレストリー事業でつくられたガーデン施設である。今回、CSA の観点から都市部の地域の人たちを巻き込みながら、農山漁村交流やファンづくり、食農教育へとつなげていくために、専門家が CSA の考え方等について講義した。



### ○ 農業者 E 氏(和歌山県白浜町)

農業に興味を持ち 3 年前に就農し、現在、農地 12 反で従業員 1 名を雇用している農業者。体験農園を令和 5 年に開業するため、それに向けて専門家からアドバイスを受けた。

### ○ 農業者 H 氏(愛知県犬山市)

米 80 アールとブドウ畑 1ha を栽培し、8 割を直売している農業者。新たに、収穫体験エリアを設けるために、専門家よりアドバイスを受けた。

### ○ バンブービレッジファーム(東京都町田市)

新規就農して 7 年目の農業者で、約 1.3 ヘクタールの農地を借りて、イベント等の企画や販路の開拓、大学との連携、多摩地域の市民との懸け橋となるようなコミュニティ農業に向けて取り組んでいる。今回は、スタッフが辞めるので、その後任選びや、実施している子ども食堂活動への補助金導入について、専門家よりアドバイスを受けた。

### ○ 富澤ファーム(東京都三鷹市)

府中、三鷹、八王子等の若手農家(50歳前後)が集まり、毎月1回の勉強会を開催している(オンライン)。普段は話すことのない市を跨いだ農家の交流を行い、専門家の話を聞きつつ、都市農業での悩みや課題(都の補助金、相続性対策等)を共有した。

## 12) 地産地消

### ○ lilo(株)(滋賀県草津市)

日本有数の焼き物の産地として知られる信楽で、若者3人が起業し、陶磁器製の無水料理鍋「lilo ダッチオーブン」を販売するベンチャー企業。自社製品のダッチオーブンを利用して、地元野菜の調理法や自然環境に配慮した「三方良し」な料理の仕方について、専門家から学ぶとともに、その内容を情報発信した。



### ○ BE CAREER(東京都江東区)

出産を機に仕事を辞め、現在は助産婦との協業やママさんネットワークで子育て支援を模索しており、「子どもが口に入れても大丈夫な安全な野菜やその加工品作り」をしたいが、思ったような活動ができない。無農薬野菜でベビーフードを販売するために、専門家とともに、農家へヒヤリングに行き、実現に向けて必要な工程、課題や問題等のアドバイスを受けた。

### ○ PARITALY(東京都小金井市)

PARITALYは小金井市の地元農家から野菜を仕入れ、八百屋と総菜屋(固定販売・移動販売)を経営する個人企業で、観光まちおこし協会主催の地元野菜PRイベントにキッチンカーで参加。専門家の協力を得て、近所の農園でジャガイモ収穫体験と様々な種類の芋の食べ比べのイベントを開催した。



### ○ エシカルスタイルライブラリ(神奈川県藤沢市)

エシカルは直訳すると「倫理的な」という意味であり、近年、経済活動の場面で、環境・社会貢献などに配慮する行動で使用される言葉である。女性10人のグループで、SDGsが目指す持続可能な暮らしを応援するコミュニティ。今回は、フードロスを出さない料理作りをテーマに、冷蔵庫に残っている野菜や地域の作物を使った調理法の専門家から学んだ。



### ○ 桜美林大学ビジネスマネジメント学群(東京都町田市)

グループホスピタリティを研究している学生たちが、江戸東京野菜に出会い、研究活動の一環で専門家の指導の下に、その栽培・収穫を手掛けることになった。今回、ごせき芯とり菜、東京長カブ、高倉大根、大蔵大根、伝統小松菜の生育状況確認と栽培の指導を行った。



### ○ (株)エッチワン(京都府久御山町)

親会社はアルミリサイクルを手掛けており、新たに、きれいな砂の培地と安全安心な水による「高床式砂栽培」で優しい京野菜を栽培・収穫する新会社として「(株)エッチワン」を設立。農業コンサル会社の指導により、GLOBALG. A.P.(グローバル GAP)を取得している。今回は、専門家から農薬全般の基礎知識、実際に栽培に利用する農薬の選定方法について学んだ。

### ○ 滝野川八幡神社(東京都北区)

この地域の江戸東京野菜として、滝野川ゴボウ、滝野川ニンジン、滝野川カブがある。元々、神社が種苗取引の中心であったことを踏まえ、境内で町内会や小学校と連携して作物を栽培し、9月のお祭りで参加者にふるまいたいと考えており、専門家から栽培指導を受けた。

### ○ スローフードすぎなみ TOKYO (東京都杉並区)

国際的な社会運動「スローフード」に共鳴する市民グループ。活動の柱は親子料理教室、生産者の現場訪問、料理人とのネットワーク構築である。今回は専門家の案内で、早稲田ミョウガを栽培している農家を訪ね、地域の食文化について学んだ。



### ○ 愛農消費者の会(東京都新宿区)

有機農業の普及・教育等を行っている全国愛農会の会員である愛農消費者の会は、関東で40年以上、生産者と消費者をつなぎ、自然農法、無農薬野菜等の安全な食品を消費者に提供してきた団体である。近年、世界的に広がりを見せている「CSA」の意義を学習し、併せて地域で楽しみながら農作業を体験できる場づくりの実例を紹介してもらった。



### ○ 飯坂食糧(大阪府和泉市)

米販売事業者の飯坂食糧は、ごはんや味噌といった和食を通して、市民の健康づくりをサポートするというコンセプトで、「子育て中ママさんのための育児さ〜くる」「アトピーっ子も安心毎日ごはん会」「和食の簡単ミニ情報」「ほっこりマルシェ(毎回200名ほど参加)」等の活動を行っている。今回は、「ほっこりマルシェ」の開催に向けて、運営方法や告知等について専門家からアドバイスを受けた。

#### ○ (合)アオゾラ(大阪府大阪市)

アオゾラは大阪メトロの地上敷地内において、地産地消・生産者支援を目的としたマルシェの開催を行っているが、課題を多く抱えている。そのため、現地で直接、専門家からマルシェの運営管理、広報、ビジュアルや商品ディスプレイ等のアドバイスを受けた。



#### ○ (一財)大阪市コミュニティ協会浪速区支部協議会(大阪府大阪市)

大阪市コミュニティ協会は、区民センターの管理や、区民祭りの事務等を市から受託している。今回、専門家の協力を得て、浪速区支部協議会で担当している浪速区民祭りにおいて、難波葱発祥の地である毘沙門天大乘にセットしたプランターに難波葱を植え、大阪と難波葱の歴史のインタビュー映像をYoutubeで発信した。

### 14) 農業祭等のイベント

#### ○ (一社)グリーンカラー(大阪府大阪市)

グリーンカラーは、マルシェを業として営んでいる団体で、鶴見緑地やりんくうタウンで定期的にマルシェを開催していた。コロナで暫く休止していたが再開に当り、マルシェ体制の立て直し、出店者へのマルシェに対する意識付けや来場者に対する接客等で専門家からアドバイスを受けた。

#### ○ 兵庫 farm to table(兵庫県小野市)

小野市は古くから有機農法の盛んな地域であることから、「うるおい交流館エクラ」の事業として、県内の有機農業生産者や加工者を集め、「アグリマルシェ」が企画され、当グループも運営協力行うこととなり、専門家からマルシェ運営のアドバイスのほか、米粉のワークショップの指導を受けた。



#### ○ STEP HARVEST 実行委員会(大阪府大阪市)

心斎橋の大規模商業施設「BIGSTEP」の大階段で、2013年から農・食・音の大イベントを開催してきたが、コロナ期間中は開催できなかった。2年振りにマルシェを開催するにあたり、当日運営面で配慮すべき事項が多いことから、専門家にアドバイスをもらいながら運営を行った。



### ○ Irodorilabo 和文化発信プロジェクト(大阪府大阪市)

日本の文化を学び、繋ぎ、伝え、日常を大切にするプロジェクトで、会員は子育て世代の母親が多い。一方で、食に関心のあるメンバーが少なくないことから、今回、「職人」にスポットを当てたイベントの企画として、野菜や果物を育てる農家を職人と位置付け、マルシェを開催することになり、専門家からアドバイスを受けた。



## 15) その他

### ○新規就農者 S 氏(東京都三鷹市)

東京での新規就農を目指し、九州から上京。農家で経験を積み、東京農業アカデミー研修農場で研修を受け、都市農地貸借円滑化法を用いて 3 反程度の農地を借り、少量多品種農業や体験農園に取り組む計画を立てている。農業委員会への手続き等について、専門家からアドバイスを得た。

### ○日進市農政課(愛知県日進市)

市内にある大学が空き施設(学生食堂)を利用し、その有効利用を図ると共に、学生の環境教育や福祉教育の場として植物工場を建設する計画を立てていることから、植物工場での農福連携についての基本的なところについて、専門家から講演、質疑応答による勉強会を実施した。

### ○大阪府北部農と緑の総合事務所(大阪府茨木市)

大阪府北部地域では都市化が進む中、特に住宅地内のため池が廃止または一部埋め立て等された場合に、その跡地・造成地を農的利用する可能性について検討しており、その一つとしてマルシェの用地として活用する際のポイント等についてアドバイスを受けた。

### ○大阪に緑を増やす会(大阪府大阪市)

都市に緑を増やすため、廃棄古着を再生させた「ポリエステル培地」に注目し、その販売に取り組もうとしており、農家向けの販売戦略のほか、普及の仕方について専門家よりアドバイスを得た。

## 4. 課題と解決方法等

### (1) 分野別課題一覧

大分類	小分類	取組から見えてきた課題
(1)まちづくり	1) 農住調和のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市農地保全・都市農業振興に関する国等からの情報提供が縦割り。</li> <li>・市民レベルからの取組を支援する枠組みが殆んど無い。</li> </ul>
	2) 新しい都市農地制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産緑地制度について、一般市の自治体やJAへの情報提供が不十分。</li> <li>・都市農地貸借法に基づく生産緑地の貸借手続について、情報が不足。</li> </ul>
	3) 公園と緑	<p>本年度、派遣取り扱いなし。</p> <p>→公園・緑地関係の自治体、民間団体で都市農地についての関心が低い。</p>
(2)市民利用	4) 市民農園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度についての情報は農林水産省HP等で入手できるが、開設を決断する上では、ハンズオン支援のようなものが必要。</li> <li>・これまで多くの市民農園を直接運営している自治体に対し、民間活用についての情報を提供する必要がある。</li> <li>・企業が農地を借りる際、ツテ等がないと難しい。</li> </ul>
	5) コミュニティ菜園・食農ライフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民グループが活動のための農地の確保・利用は、農地法等の制度上、ハードルが高い。</li> <li>・市民グループ等がコミュニティ活動として農作業を行う際、農業技術指導を含め公的支援の仕組みが無い。</li> <li>・都市公園内に、コミュニティ菜園を設置することが制度的に難しい。</li> </ul>
(3)教育・福祉等	6) 高齢者・生きがいづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸福祉等の分野では、情報交流の仕組みが不十分。</li> <li>・全般に取組が低調であり、その背景には、介護保険上の位置付けが無いことが想定される。</li> </ul>
	7) 障害者福祉等	<p>① 特別支援学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無農薬栽培の場合、品質を維持するのが難しい。</li> <li>・栽培に向けた準備の時期や収穫のタイミングに関して、アドバイザーとの連携が難しい。</li> </ul> <p>② 福祉事業所、農福連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農作業のフィールド確保に苦勞している。採草放牧地を確保したい場合、都市部では特に難しい。</li> <li>・障害者雇用や就労支援施策との連携が十分でない。農泊施策との連携の可能性。</li> <li>・障害福祉サービス等報酬基準が基本的に</li> </ul>

		<p>工賃アップと連動していることから、6次加工化への関心が高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の担い手を求める地域の期待に応えにくい。</li> <li>・障害者と農家の情報共有やマッチングをどのようにするか。</li> <li>・農福連携に取り組もうとする際の相談先がわからない。</li> </ul>
	8) 学校教育等の食育	<p>① 東京都小学校の授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸東京・伝統野菜研究会の熱意によるところが大きい。</li> <li>・伝統野菜の種を入手するのが難しい。</li> <li>・栽培の準備や収穫のタイミングが難しい。</li> <li>・農作業のフィールド確保に苦勞している。</li> <li>・給食に取り入れる上でのハードルが高い。</li> <li>・都市農地、都市農業の大切さを教えることへの展開をどうするか。</li> </ul> <p>② それ以外の学校での授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸東京伝統野菜、なにわの伝統野菜の関係者の熱意によるところが大きい。</li> </ul> <p>③ 保育園等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熱心な果物店、熱心な農家の呼びかけで成立。</li> <li>・コロナ禍で行事実施のために、徹底的な感染防止対策が必要。</li> </ul> <p>④ 自治体や民間の社会教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なきっかけから食を通して、活動に参加するようになってきているが、都市農地・都市農業の大切さを教えることへの展開をどうするか。</li> <li>・学童クラブで子供たちに作付けを行う場合、スタッフに農業経験がないため実施できるか悩ましい。</li> </ul>
(4) 都市農業	9) 6次産業化	<p>① 自治体、NPO、協議会等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業者への取組は6次産業化プランナーのような仕組みがあるが、広義の6次産業化に関わる市民グループ等への支援策が不十分。</li> </ul> <p>② 農業者等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイスの後のフォロー（施設整備への補助、融資等）の仕方。</li> </ul>
	10) 担い手育成や農地確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体における長期的な都市農地保全・都市農業振興のマスタープラン策定の必要性。内容の広報・普及が必要。</li> </ul>
	11) 入園方式等の農業経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業者が新しい農業経営に取り組もうとした時に相談する窓口、応援するシステムがない（法律の手続き、補助金の手続き等の窓口はあるが）。</li> </ul>
	12) 地産地消	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市農業振興に熱心な自治体が地産地消を支援する取組を行っている例もあるが、</li> </ul>

		<p>一般には系統的な行政支援策が講じられていない。</p> <p>・消費者団体等の市民グループが主催する例が多いが、農業者との接点づくりに苦勞している。</p>
(5)税制その他	13)税制	本年度、派遣取扱いなし。
	14)農業祭等のイベント	<p>・コロナ禍で開催休止を余儀なくされたり、新しい生活様式に対応した運営・接客等、体制づくりが難しい。</p> <p>・消費者団体等の市民グループが主催する例が多いが、農業者との接点づくりに苦勞している。</p>
	15)その他	<p>・多様な主体が農業とかかわりを持ちたいと考えており、これまでの定型的なテーマを超えた相談(植物工場、新素材開発、新規就農、補助制度、空地の農的利用、農による地域おこし)が増えており、アドバイザー派遣に至る事前調整に時間を要する。</p> <p>・都市部との交流を持ちたいと考える農村地域からの相談も増えつつある。</p> <p>・アドバイザー派遣活用に向けてのPR。</p>

## (2)都市農業の機能発揮のための取組の基本方向

都市農業振興基本法により、その多様な機能の発揮を図りつつ、都市農業を振興すべきこととされ、都市農業振興基本計画において、都市内の都市農地の位置づけが「宅地化すべきもの」から「都市にあるべきもの」に転換され、コンパクトシティ化と連携して制度構築を図るべきことが示された。

また、当面する「2022年問題」への対応を急ぐことが示され、この間、生産緑地法の改正等が行われる一方で、都市農地貸借円滑化法が創設された。更に、国際的には2015年の国連サミットで、持続可能な開発目標としてSDGsが採択される中、様々な社会的課題解決のための「農」を活用した動きが広がっている。

これらを踏まえた、我が国における都市農業振興・都市農地保全に向けた基本的方向は、次の通りである。

### ①改正生産緑地法及び都市農地貸借円滑化法の活用等による農地保全・多様な都市農業経営の実現

- イ 改正生産緑地法を利用した都市農地保全の取組
- ロ 一般市における生産緑地導入等
- ハ 都市農地貸借円滑化法の活用等による多様な都市農業経営の実現

### ②持続可能な社会実現に向けたSDGsに対応した「農」の活用

- イ 農地や公園緑地を利用した多様な「農」的空間の創出
- ロ 農家と市民の協働による農的空間の維持・保全
- ハ 農地以外の農的空間利用への支援

### ③農地を「都市にあるべきもの」にするための取組

- イ 田園住居地域、農地保全型地区計画等の都市計画の推進
- ロ 公園緑地制度の中での農地保全(公園分区、特別緑地保全地区、認定市民緑地)

### (3) アドバイザー派遣制度の課題

#### 1) 自治体、JA での活用に向けた掘り起こし

取組の基本的方向のうち、社会的要請度の高い一般市における生産緑地導入、都市農地貸借円滑化法の活用及び、農地を「都市にあるべきもの」にするための各地の取組の支援に向けて、積極的にアドバイザー派遣を行う必要がある。

その主体が自治体やJAであることを考えると、農林水産省、国土交通省及びJA全中と連携し、例えば、多くの市街化区域内農地を有する市町村等での生産緑地制度導入や農地保全型地区計画を考えている市町村等に、積極的にアドバイザー派遣制度の活用を働きかける。

#### 2) 多様な都市農業経営の実現への対応

市民を農業経営等に取り込んだ体験農園・観光農園の開設、加工等の6次産業化、CSAといったテーマで、実際の経営に携わっている農家等へのアドバイザー派遣リクエストが増大している。

自らの農業経営に追われている農家をアドバイザーとして登録することの難しさ、派遣すること難しさ等のハードルがあるが、オンラインの活用等によりこの分野での対応を進める必要がある。

#### 3) 高齢者福祉や地域での環境維持の取組支援

取組の基本的方向②「持続可能な社会実現に向けて重要度の高い『高齢者・いきがいつくり』」については、同じ福祉分野の障害福祉と比較して極めて低調な状態が続いている。

介護保険制度下では、制度の中の施設・人員配置基準や加算項目として、農的活動が位置付けられていないことが大きな理由と考えられるが、その意義を考えた時、該当する専門家の登録推進や取組のPR等の手立てを講じる必要がある。また、都市周辺等で農地や水路等の環境、そこで育まれてきた地域コミュニティを維持しようとする取組が、農家側及び市民側の双方から生まれている。

一方で、双方のマッチングの仕組みが求められており、アドバイザー派遣事業のジャンルとして積極的に支援する必要がある。

#### 4) 東北・北海道地域における「農」の機能発揮の取組支援

東北・北海道地域におけるアドバイザー派遣が極めて低調である。その背景には、都市農業エリアが限られていることや、東日本大震災復興との関わり等、他地域と異なる都市農地保全の課題や都市農業振興上での課題を明らかにしつつ、地域の中での「農」の機能発揮の活動の芽生えに光を当て、アドバイザー派遣による支援を拡大する必要がある。

#### 5) アドバイザー派遣制度PRの充実

市民団体やグループ等による都市農業の機能発揮の取組は、自治体やJAが主導する農業政策や都市政策と異なり、たまたま熱心な指導者や中心人物がいたことによりスタート、継続しているものが殆どである。

市民の中でのこうしたリーダーを増やすためには、社会全体としての底上げが必要であり、そのためには、都市農業の機能を発揮した多様な取組が期待される社会になっていることを様々な場面で啓発することが大切である。また、コロナ禍によって、デジタル化の動きが進展したことに伴い、インターネットの役割がますます増大している中で、YouTube等のSNSを活用した制度のPR・啓発を進めていく必要がある。さらに、都市において「農」の機能発揮に取組んでいる様々な団体や専門家の活動を紹介するサイトを構築し、相互交流に加え、前述した底上げにつなげていく必要がある。

## 農山漁村振興交付金のうち **都市農業機能発揮対策**

【[https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi\\_nougyo/attach/pdf/hojo\\_gaiyou-26.pdf](https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyo/attach/pdf/hojo_gaiyou-26.pdf)】

詳細はYouTubeで  
ご覧いただけます



**<対策のポイント>**  
都市住民と共生する農業経営の実現するため、都市部での農業体験等の取組や農地の周辺環境対策、防災機能の強化等の取組を支援し、その際、都市農地の貸借促進に係る取組を優先的に支援します。また、今後の都市農業振興に向けた国の施策の方向性に沿ったモデル的な取組を支援します。

**<事業目標>**  
都市農地の貸借の円滑化に関する法律に基づき貸借された農地面積（255ha〔令和6年度まで〕）

< 事業の内容 >
< 事業イメージ >

### 1. 都市農業機能発揮支援事業

都市農業が有する多様な機能を活用した取組を支援するための都市農業等のアドバイザーの派遣、都市農業を持続的に経営していくための税制度・相続等の講習会の開催、都市住民をはじめとする国民の都市農業に対する理解醸成や農業・農山漁村への関心を喚起するための効果的な情報発信等の取組等、都市農業の機能発揮のための全国に向けた取組を支援します。

都市農業機能発揮支援

都市農業アドバイザーの派遣



税や相続に関する講習会



都市住民への理解醸成や効果的な情報発信



### 2. 都市農業共生推進等地域支援事業

① 地域支援型  
 ア 都市住民と共生する農業経営への支援策の検討や都市農業の機能についての理解醸成、市民農園等の附帯施設の整備や都市農地の周辺環境対策等の取組  
 イ 都市農業者と都市住民が直接ふれあうマルシェ等の開催による交流促進のための取組  
 ウ 都市農業の機能である防災機能の維持・強化等の取組等を支援します。  
 ② モデル支援型  
 国の施策の方向性に沿った取組を、複数の地域が連携して一体的に実施し、当該取組をガイドライン化する等により、各地域への波及させる取り組みを支援します。

都市農業共生推進等地域支援

**●地域支援型**

都市住民と共生する農業経営への支援策の検討



都市住民の農作業体験

都市住民との交流促進



都市の農業体験農園

防災機能の維持・強化



マルシェ等の開催

防災機能の維持・強化



防災訓練や防災兼用井戸の整備

**●モデル支援型**

農村ファンの拡大



防災機能の強化



地域支援型の取組に合わせ、国の施策の方向に沿った取組を実施し、ガイドラン等により全国に波及させる取組を支援。

都市農地貸借法に基づく農地の貸借による次世代の担い手づくり等の取組に対し、加点により優先。



貸借



都市農業者（担い手）

**<事業の流れ>**

国

→

定額

民間団体、地域協議会、市区町村、J A、NPO法人等

【お問い合わせ先】  
 農村振興局都市農村計画課（03-3502-5948）

28

## 2021(令和3)年度「農」の機能発揮支援アドバイザー派遣事業

都市農産の多様な機能(販路、防犯、環境、高齢者、学習、福祉、交流等)を發揮した取組を支援するため、都市農業者や市長等のみならずのご依頼(申込)により、当センターが都市農産・まちづくり等の専門家を派遣し、勉強会等での説明やアドバイスをいたします。  
※派遣総数 200箇所を予定。(6-9月70箇所、10-12月90箇所、1-3月40箇所)

**事業概要および申込方法**

**申込みができる方**  
農業者やその関係団体、地域で活動している(またはしようとしている)団体、  
団体の代表  
※企業、社会福祉法人、NPO、学校、自治体等も含まれます

**派遣回数**  
3回まで  
※複数回の場合はその都度申込みをしてください

**費用**  
専門家への謝金、旅費を当センターが負担します  
※旅費は片道50km以上または1,000円以上の場合  
※内容等によっては依頼者に費用の一部を負担していただく場合もあります。  
(申込手續きの際にご案内します。)

**申込方法**  
当センターHPにアクセスしていただき、  
いずれかの方法でお申し込みください。  
①入力フォームからお申し込みいただく  
②ダウンロードした申込書に必要事項を記入し、EメールかFAXでお申し込みいただく  
※申し込み受領後、ご依頼内容の要約をご連絡いたします。

**申込期限**  
原則として実施日の2週間前まで  
※最終受付：2022(令和4)年2月28日

**派遣内容**  
以下のようなテーマについて、ご依頼(申込)内容に依じた専門家を派遣し、勉強会等での説明やアドバイスをいたします。※1時間単位または2時間単位

まちづくり	高齢者とのまちづくり/新しい都市農産創出/公園と農
市民参加	市民参加/コミュニティ創出/農産物活用
教育・福祉	食育・食生活/生きがいづくり/児童福祉等/学校現場等の食育
都市環境	6次産業化/地域活性化/新規就農/新規就農支援/新規就農者/入居が成るの農産物
その他	防犯、高齢者等のイベント/その他(町)の団体の別にご依頼するテーマ

## 2022(令和4)年度「農」の機能発揮支援アドバイザー派遣事業

都市における「農」の多様な機能を發揮した取組を支援するため  
**都市農産やまちづくりなどの専門家を派遣**

**無料** ※内容により一部費用が生じる場合がございます

**現地やオンラインでアドバイザー!**

**取組みテーマの例**

- ✓ 地域における食育・環境教育
- ✓ 市民農園の設置、コミュニティ菜園の取組み
- ✓ 農業体験農園・観光農園の開設、CSAの取組み
- ✓ マルシェや収穫祭などのイベント開催
- ✓ 園芸福祉で高齢者の生きがいづくり
- ✓ 農家と地域産業との連携で地産地消
- ✓ 障害者就労と農業のマッチングで6次産業化
- ✓ 新しい都市農産・都市農地制度の勉強会  
(都市農産振興計画、生産地制度、農産物流通、防災協力農地など)

>>> **詳しくはこちら**

申込受付

**2022(令和4)年2月28日**

事業主体

一般財団法人 都市農地活用支援センター

<http://www.tosinouti.or.jp/>

※本事業は最終決定後「都市農産振興計画」により実施しています



都市農産活用アドバイザー派遣事業の取組について  
詳しくはこちらをご覧ください  
<http://www.tosinouti.or.jp/living/caselist.html>



29

# 農を活かすと、できること、いっぱい!

こんなアドバイスを受けられます

3

### 市民農園の設置・都市農園の開設、CSAの取組等

①のとはば...  
市民農園等の開設・運営方法(年間プログラム・収益計画・入園者の指導法等)、市民と連携したCSAの取組方法  
NCSA 市民農園

4

### マルシェや収穫祭などのイベント開催

①のとはば...  
地域の行事に合わせてマルシェを開催して地産地消促進や交流の場にする。

5

### 高齢者で高齢者の生きがいをづくり

①のとはば...  
贈り物のデザイナーサービスやサービス付き高齢者住宅で園芸療法車椅子でもレイズドベッドで野菜づくり

6

### 園芸と地産地消との連携で地産地消

①のとはば...  
産直店が地元産野菜を使った料理とトークショー開催

7

### 園芸体験と園芸のマッチングで6次産業化

①のとはば...  
お茶やハム、ソーセージ、豆腐、ジェラートなど多様な加工品づくりで地元産との連携体制構築

8

### 新しい都市農園・都市農園制度の創設

①のとはば...  
都市農園・都市農園制度の創設、都市農園計画や野菜モテルの周知、園芸での防災活動や防災協力農産物の導入、都市農園の農産物の活用方法等

1

### 地域における食料・環境教育

①のとはば...  
食料政策を軸から育て、収穫して食べる食育授業、生ごみのたい肥化や堆肥づくり、田んぼや水産で子どもに体験

2

### 市民農園の設置・コミュニティ農園の取組

①のとはば...  
NPOや地産地消による市民農園の設置、近隣農士の取組づくりにより多様なコミュニティの活性化

---

一般財団法人 都市農地活用支援センター

東京都千代田区岩本町3-9-13 岩本町寿共同ビル4階

TEL. 03-5823-4830 / FAX. 03-5823-4831

E-mail : [adviser@tosinouti.or.jp](mailto:adviser@tosinouti.or.jp)

HP URL : <http://www.tosinouti.or.jp/>



「都市と農の共生」

都市農業が有する様々な機能発揮の取組事例をHPにて紹介

<http://www.tosinouti.or.jp/living/caselist.html>

